みんなで進めよう
茨城農業改革

赤ネギ「園研１号」の特性と栽培方法

農業総合センター園芸研究所

〔特　性〕

「べにぞめ」　　「園研１号」

「べにぞめ」と比較した「園研１号」

・分けつが著しく少ない。
・葉鞘が長く、太い。
・濃い赤紫色に発色し、外観が優れる。
・発色のばらつきが少なく、秀品率が高い。
・葉鞘の発色部の割合が多い。
・柔らかさ、食味は同等である。
・辛みが少ない。
・初期生育は良好で、抽苔が遅い。

〔栽培方法〕

・ 播種期：10 月（２月までは可能）に播種し、４月に仮植を行う。
・ 圃場準備：土壌によって発色程度が異なることがある。地力のある沖積土が最も適しているが、火山灰土でも栽培することができる。一般的な「白ネギ」と同様に水はけのよい圃場を選ぶ。ただし、極度の乾燥は生育・発色に悪影響を及ぼすので、乾燥しないように注意が必要である。
・ 施肥量：赤ネギの葉鞘部の発色はアントシアニンであり、窒素過多では発色が劣ることがある。そこで、元肥は成分で$N：P_2O_5：K_2O$＝10：30：10（kg/10a）とし、追肥は土寄せ時に$N：K_2O$＝５：５（kg/10a）を３回程度施用する。
・ 定植：幅 20cm、深さ 15cm の植え溝を掘る。著しく小さい苗や赤色に発色する兆候が認められないような苗は選別し、生育の揃った苗を株間 15cm に定植する。
・ 土寄せ：生育が緩慢であるため、土寄せの際に生長点が土で隠れないように、少しずつ徐々に行うようにする。
・ 防除：白ネギや従来の赤ネギと比較してとくに発生しやすい病害虫はないので、定植時のネキリムシ類の予防、アブラムシやアザミウマ類の防除およびサビ病等の防除を中心に、白ネギに準じて行う。排水対策、圃場周辺を含めた除草、連作の回避等の耕種的な防除に努めることが大切である。
・ 収穫：12 月に入って、本格的な寒さに当たるようになると、葉鞘の発色が増してくる。収穫は霜が数回降りるようになってから、発色を確認した上で始めるようにする。暖かくなる３月上旬頃までが適期となる。
・ 調製：葉鞘の着色は表皮の数枚だけなので、葉鞘の泥を布等で拭き取り、枯葉を取り除く程度の簡単な調製に止どめる。

収穫期（１月）の状態

＜問い合わせ先：園芸研究所野菜研究室　電話０２９９（４５）８３４１＞